（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2372400248		
法人名	医療法人　宏友会		
事業所名	グループホーム　元気村　1ユニット		
所在地	半田市南大矢知町２－４２－１３		
自己評価作成日	令和元年９月３０日	評価結果市町村受理日	令和2年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2372400248-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和1年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな丘陵地帯の自然豊かな地に移転してはや2年。すっかり環境にも慣れ毎日がゆったりまったりとした時間が流れている。経験豊かで馴染みの職員がきめ細かく声掛けし関わる事で利用者は安心な日々を過ごされている。看護職員も何人かいる事と経営母体が医療法人であることで健康管理がしっかり行われている事でご家族から信頼されている。職員間の情報がしっかり行われる事でお一人お一人の介護の方針も共有できている。ご家族の面会も多く運営推進会議への参加率も高い。法人の研修や勉強会に積極的に参加する事で現状に満足するのでなくより良い施設とはと問題意識を持つことを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームは、長年にわたり運営していた別の場所から移転しており、移転後の初めての外部評価である。地域の方との交流については、新たな方との交流が行われている。運営推進会議については、ホームの移転後も、引き続き、多くの家族の参加が得られており、家族との定期的な交流や意見交換の機会にもつながっている。ホーム建物については、移転前はユニットが別の階に分かれていたが、移転後は、平屋の建物に両ユニットが平面につながっていることで、広くゆったりとした空間が確保されている。立地場所についても、建物が南向きの高台にあることで、採光に優れた生活環境となっており、テラスには季節に合わせた植物が植えられている。また、ホームが運営法人の関連事業所の近隣に移転したことで、関連事業所の職員との日常的な交流や情報交換等の機会にもつながっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	目につくところに理念や年度目標を掲げて常に意識できるようにして定期的な会議で話し合うように心掛けている。	運営法人の基本理念を支援の基本としながら、ホーム独自の理念もつくられている。ホームの理念については、利用者がホームでゆったり、自由に過ごすことを目指した内容となっており、日常的な実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域主体の協議会に参加し施設への理解に努めている。定期的な運営推進会議には民生委員の参加も頂いて日常の様子を見て頂いている。	ホームが新たな場所に移転したことで、地域の方との交流についても、新たな関係づくりに取り組んでいる。ホームの場所が分かるように、新たに出入口に看板を設置する等、地域の方との交流につなげている。	ホームの移転後についても、地域の方との交流の機会がつくられている。新たに看板を設置した取り組みを含め、ホームの継続的な地域の方との関係づくりの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方の見学の受け入れや施設の状況を理解して頂ける様に協議会にて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	多くの方の参加を頂いている運営推進会議では互いに忌憚のない意見交換や感想をいただけるよう働きかけて自分たちの取り組みに対して問題意識を持つようにしている。	会議については、ホームの移転後も引き続き、多くの家族の参加、協力が得られており、定期的な家族との交流が行われている。また、毎回の会議に市職員の参加が得られており、定期的な情報交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の開催の会議には参加し顔の見える関係づくりに努めている。	市担当部署との情報交換については、運営推進会議に以外にも、毎月のホームの運営状況を報告する等、定期的及び随時の情報交換が行われている。また、運営法人を通じた市担当部署との連携も行われており、市の福祉施策への協力が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的な研修の参加や身体拘束とはどういうことなのか理解を深めるように取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者がホーム内を自由に移動できるように、日常的に開放的な雰囲気がつくられている。また、毎月の職員間での現状確認や定期的な職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	関係する研修への参加も含め虐待が見過ごされる事の無いようにミーテング等で話し合い注意し合う様に心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修の機会があれば参加する様にし利用されている利用者もいるので関心を持ち情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は管理者が行っているが丁寧にわかりやすくと心掛け納得いくまで十分な説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内に意見箱を設置すると共にこまめなお声掛けで要望や意見を聞けるようにしミーテング等で情報の共有に努めている。	家族との定期的な交流の取り組みが行われており、家族との意見交換等が行われている。家族からの要望等については、管理者の他にも運営法人の幹部職員による対応も行われている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的なミーテングや個人面接等で提案や意見を聞くように努めている。	毎月の職員会議の他にも、毎日の申し送りの時間を通じた意見交換が行われており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による定期的な職員面談が行われており、職員一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回は人事考課を一人一人面接し個人の目標作成や振り返りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修をなるべく受講できるよう配慮し復命して参加出来なかった職員にも内容を伝達する様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者や異職種との交流を研修や会議を通して行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	傾聴を心掛け本人や家族、関係者から情報を得るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	よく話を聞くように努め困っている事や不安な点を聞き出し解決できるよう関係づくりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	得られた情報から何を優先すべきか支援の在り方や方向性を考えるよう意見交換しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お一人お一人の生活歴や性格も含めこまめな声掛けと丁寧な関わりで一方的な立場にならないようにし良い人間関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	折りに触れ家族と話すようにして施設と家族の関わりのあり方について理解して頂ける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	来やすい雰囲気づくりとくつろげることが出来るよう配慮している。	入居前からの関係継続は徐々に困難になっている現状があるが、運営推進会議に多くの家族の参加が得られていることで、利用者の中には、家族と外出する等の交流が行われている。また、身内の方の墓参りや法事等を通じた外出も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お一人お一人の性格や相性を考えて席を配慮したり声をお掛けし穏やかな時間が過ごせるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご要望があれば必要に応じて支援相談に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	折りに触れ思いや希望、要望を聞くように努めている。	日常的に職員間で意見交換を行う時間を設けていることで、職員による利用者に関する気付き等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。また、定期的なカンファレンスも行われており、利用者の意向等に関する検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人とかかわりのあった方たちから必要な情報は得て職員間で情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の関わりの中から情報収集し把握した内容については情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーテング等で課題やケアのあり方について話し合い今の状態にあった計画を作成する様に努め本人や家族にも内容を確認している。	介護計画については、ライフサポートプランの様式を活用しており、利用者の状態変化等にも合わせながら6か月での見直しが行われている。また、日常的に職員間で介護計画に関する記録を残し、3か月でのモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	きめ細かく記録し情報の共有を徹底して行い漏れの無いように努めている。また都度介護計画に反映されるように定期的な会議で見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況に応じて柔軟に対応する様に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源をきちんと把握して適切な支援が受けられるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	心身の状況から必要と思われる医療の受診が受けられるよう希望も聞きながら支援している。	ホームの運営母体が医療機関でもあることで、利用者全員が協力医をかかりつけ医としており、医療面での定期的及び随時の支援が行われている。また、管理者が看護師でもあることで、協力医との医療面での連携等の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設内に常駐している看護職とは常日頃より情報を共有し相談や助言を受け適切な対応が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者とは密に連携を取りあう関係を築いて適切な治療や療養が行ったうえで施設に安心して戻れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	定期的にご家族とは看取りに関しての考えや希望を話し合う機会を持ち施設で行えることやどのような事が重症化していくと考えられるのか分かりやすく説明させて頂いている。	利用者のホームでの看取り支援にも対応しており、医療面での連携や家族との話し合いを重ねながら、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。職員間で支援内容の検討を重ね、入浴支援を行う等、利用者の意向に合わせた支援にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故対応のマニュアルを作成しどの職員も対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を始め防災意識を持つように折に触れ話し合う様にしている。法人全体での災害時の取り組みも行なっている。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。ホームが移転していることで、関係機関との新たな関係づくりが行われている。また、近隣の関連事業所とも連携しながら水や備蓄品の確保が行われている。	昨年度、関連事業所も含めて、災害による長時間の停電を経験しており、様々な気付きにもつながっている。 ホームでの経験が今後の非常災害時に活かされることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員同士注意し合い丁寧な言葉遣いが出来るように努めている。	基本理念でもある「職員心得3ヵ条」を利用者への支援の基本としており、利用者の立場に立った対応に心掛けるような支援が行われている。職員間で利用者への対応を検討する等、職員の振り返りや注意喚起等につなげる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を個別に聞き取るように心掛け出来る範囲での自己決定を促しすように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設としての大まかな流れの中でどのような希望があるのか聞き取り出来うる範囲で希望に添えれるように支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の希望を聞き取りながらご家族の協力も得ておしゃれが楽しめるように支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	能力や状態を踏まえて出来る事を行って頂いている。	おかず類については、関連事業所の厨房から提供されているが、ご飯と汁物はホームで用意している。ホームで「めんの日」を設ける等、利用者の楽しみにつなげる取り組みも行われている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体重測定を定期的に行い食事摂取量の確認、栄養状態の確認も含め適切に支援させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声を掛けながら口腔の清潔に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を作成し一人一人の排泄パターンを把握するように努めている。そのうえで排泄が気持ちよく安全に行える様に支援させて頂いている。	利用者全員の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報交換を行いながら、利用者に合わせた排泄支援に取り組んでいる。トイレでの排泄を基本に考え、排泄状態の維持、改善につなげている。また、排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄状態をチェック表にて確認し飲食物の工夫や腹部マッサージ等で定期的な排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	身体の状況に応じて個浴、ミスト浴を状態に応じて支援させて頂いている。	利用者が週2～3回の入浴ができるように利用者への声かけが行われており、入浴を拒む方も定期的な入浴が行われている。季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯の他にも、ホーム内に専用のミスト浴が設置してあり、身体状態の重い方の入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	在宅の状況になるべく近いように希望を確認しながら支援させて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服用している薬の情報を職員間で共有し何のために服用しているのか理解したうえでの服薬介助をしそれに伴う観察を密に行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	折りに触れご家族や関係者から情報を得るようにしたうえで何ができるのか何をすることが楽しみにつながるのか工夫する様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族の協力を得てご自宅やお墓参り、受診にと行って頂いているが入所されている個々の方の希望にはなかなか添えることが出来ていない。	季節や天候にも合わせながらホーム周辺を散歩したり、関連事業所で行われているカフェに出かける等、定期的な外出が行われている。季節等に合わせた外出行事が行われている。また、利用者の希望にも合わせた本屋や外食等の取り組みも行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人で金銭を管理しておらず使う機会も殆ど無い為この項目の様には支援できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	季節の挨拶をご家族に当てて書いてお出しする事でご家族は大変喜んで下さっている。電話はご希望されればかけて頂く様支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度湿度を確認しながら快適な空間になるよう意識し快適な空間になる様にこまめに掃除をし季節感を感じて頂ける装飾も心掛けている。	両ユニットが平面でつながっていることで、ゆったりとした空間がつくられている。窓が南向きに設置されてあり、利用者は日中の時間を明るい雰囲気で過ごしている。通路の壁面には、季節等のある飾りや利用者の作品を掲示する等の取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	互いの人間関係を確認しながら快適な距離を保てるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の今までの暮らし方を踏まえご家族にも協力を頂いて使い慣れた物や執着のある物好みのものを身近に置き居心地の良い環境になる様に努めている。	居室には、ベッドと収納ケースが備え付けとなっていることで、持ち込みの少ない居室の方もいるが、利用者の中には、好みの家具類の持ち込みが行われている。また、利用者や家族の意向に合わせた、家族の写真や自身の作品の掲示が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	何ができるのか職員間で日々の関わりから確認しながら少しでも自立が出来るように取り組んでいる。		